

新時代のリーダー！ 西川新病院長に聞く。

今回は、心機一転！リーダーシップに期待の西川新院長に突撃取材です。

* こんにちは。アーシ播磨病院の艇長から新病院長へとなられたわけですが、新しいリーダーとしての抱負と信念を教えてくださいませんか？

「(ペロン船の)艇長から新病院長へ」とは「ムチャ振り」ですが、よく似たところはあると思います。艇長を数回やらせて頂いて、以下のようなことを考えるようになりました。即ちその日の天気、風向、潮の流れ、何コースに行くかなど艇を取り巻く環境を注意して見、ほかのチームの過去の成績などを調べます。次に何といても乗組員(選手)の状態を、練習の時からどうしたら本番で気力・体力共に最良の状態に持っていけるかを考えます。その日の状態も判断してレース運びを自分なりに組み立てるようになりました。

ペロンの話になるとついつい力が入ります(笑)。

病院長も同じで、病院、医療を取り巻く様々な環境を考慮した上で、今後の進むべき方向や変化する速度を考えねばならないと思います。病棟・外来の建物が一新され、設備や最新の医療機器が入っていても、それを運用する「人=職員」次第ということです。病院職員の1人1人の能力の総和が、その病院としての発揮できる力であると思います。

「抱負と信念」

抱負は病院職員全員が幸福になること。

信念は「誠実に努力し続けることが究極の勝利につながる」ということです。

なるほど、西川院長の意気込みが静かに伝わってくる言葉ですね。



*** 副院長から院長になられて何か変化はありましたか？
たとえば、給料が増えたとか！（笑）**

お給料はちょっとだけ増えました（笑）しかし仕事は大量に増えました（笑）。大きな変化は今まで見なかったこと、聞かなかったこと、考えもしなかったことを「見、聞き、考えねばならない」ようになったことです。副院長の時はほとんど整形外科のことだけ考えておけば良かったのですが、今は他科や病院の組織、経営などを考える時間のほうが多いです。

*** プロフィール紹介、長所、短所、ボランティア活動などについても教えてください。**

長所：たいしてとりのえない私ですが、あえて言えば今の若い人に比べて「精神的に強い」と思います。私が育ったころは、「厳しく育てる」時代で、今なら「パワハラ」だらけでした。学校や家庭、近所の人にもよく怒られたものです。ただよく怒られたからこそ「打たれ強く」、少しでも褒めてくれるとやる気が出てきます。

短所：「肉体的に弱い」ことです。人間やはり50歳を過ぎるとどうしても体力の衰えを感じます。たとえば徹夜ができなくなったとか……。30代、40代のころは3日2晩ぐらい一睡もしなかつたことがたまにありました。今はどうしても寝てしまいます。

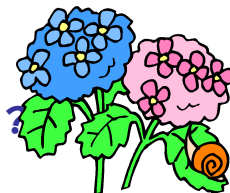


ボランティア活動については、2年前の東日本大震災発生7日目に「**兵庫県ボランティア先遣隊**」に参加させて頂きました。お恥ずかしいことですが、実は私自身それまで「ボランティア」をしたことがなく、その気もなかったのですが、前田先生に「行ってくれんか？」言われたので行っただけです。阪神淡路大震災の時も「患者を受け入れてくれへんか？」と言われたので受け入れただけです。

東日本大震災の時の活動詳細は[当院ホームページ T・TAK 新聞 2011年5月～7月、12月～2012年3月号](#)（お知らせから[T・TAK新聞更新をクリック](#)して入るか、[委員会・チーム医療からT・TAKをクリックしT・TAK新聞へ](#)）を参照して下さい。その中でも述べましたが、「現場を見る」ことで、日頃の自分の甘さや傲慢さが分かり、励ましに行っただけなのに、現地の人に勇気と元気を頂いて励まされて帰って参りました。東北の人々の「不撓不屈」の精神には頭が下がります。

何故そのような活動に参加したかと言うとたいした理由はありません。「頼まれて困っている人がいればそこへ行く」それが医者として「当たり前だ」と思うからです。私は積極的にボランティア活動に参加したのでは無いので、何も褒められたことはありません。が、たまに褒めてくれる人がいると嬉しく思います。

*** ストレス発散方法、趣味なども教えていただけますでしょうか？**



ストレス発散方法は、車の運転ぐらいです。昨年末スピード違反で捕まって罰金ん万円払わされ、逆にストレスになりました（笑）。

唯一に近い趣味は旅行です。特に年1回は海外へ行くように心がけています。国際学会を兼ねていくことも多いです。それと趣味とは言えませんが、他人の家の犬と仲良くなって散歩することが好きです。



***最後に、今後の播磨病院の展望について伺います。**

やはり人（職員）次第で将来は決まると思います。

地球上の生物は少しずつ突然変異を起こし、それがその時の環境に適応できたもののみが残存し、さらに進化しているそうです。適応できなかったものは絶滅しています。

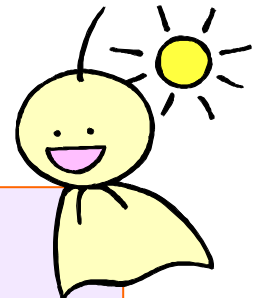
人の活動も同じで、周囲の環境が変わっているのにそれに対応できない人は消滅するのみです。無人島で「私は優れた医療者です。」といっても医業は成り立たない。老人ばかりの町で「新生児治療では日本一です」と言う医者が何人いても意味の無いことなのです。

当院は相生市を中心とした西播磨医療圏では、無くてはならない病院だと思えます。

展望は良いと思えます。但し、良くも悪くも大企業の健保立の病院としてかなり「甘やかされてきた」あるいは「甘くなっている」職員がいることは事実です。「自分のできることもしないで、できもしないことばかりを望んで、ただただ悲観的な愚痴ばかり言っている」人がいるのは残念なことです。

少しだけ前向きになって、普通の病院が普通にやっていることを全職員がやれば、必ず質的にも経営的にも良い病院になると信じています。

そして職員一人一人が日々努力を重ねることが最も大切だと思えます。



突然の取材にも快く応じて頂き、いつもの気さくな西川先生。

お忙しいところ、お時間を頂きありがとうございました。

西川院長は、阪神淡路大震災時よりボランティア活動にも積極的に参加され

（院長は、謙虚に否定されましたが）大阪人としてのサービス精神とユーモアも兼ね備えられておられます。そんな西川院長の今後のご活躍をIH播磨病院の職員全員で、期待しつつ応援していきたいと思えます。

T・TAK 新聞のバックナンバーは、「IH播磨病院ホームページ」

<http://www.harima-hp.jp> からご覧いただけます。

by : A. W & F. K